



昨年末、かねてからの私の希望で北海道函館に行くことが出来ました。高校2年の息子は修学旅行や部活の遠征で東北や北海道に数回行ったことがあります。私自身はといえば仕事でもプライベートでも東京より北には一度も行ったことがありません。

九州熊本に住んでいる私たちは、北海道の環境に対応しようと雪用ブーツや靴底滑り止め、極寒用のインナー、厚手のマフラーなどを購入し、完全防備で向かいました。また、凍った路面を滑らずに歩くコツもあるようにYouTubeで勉強し、予行練習をしたくらいの念の入れようでした。

東京から函館まで東北新幹線で約4時間かけで北上しました。その間、青函トンネル通過を体験でき、先人方の凄さを改めて感じることが出来ました。

函館駅に到着したのは夕方5時を過ぎたくらい。夕方といっても辺りは真っ暗になっており、九州との違いを早速感じさせられました。私たちは宿泊先ホテルのチェックインを終え、すぐに世界三大夜景に選ばれている函館山から見る夜景をロープウェイを使って見に行きました。山頂は数百メートル先も見えないくらい吹雪いており、数分ごとに視界が開けたり開けなくなったり。寒さも尋常じゃないので、視界が開けるのをずっと待ち続けるのも難しい状況でした。視界が開けないまま5分くらいが過ぎ、もう体の限界ということろでいきなり唸るように吹雪いていたのが嘘のように穏やかになり、数十キロ先まで一気に視界が開けました。あの天候でこのような写真が取れたとは奇跡だと現地の方から驚かされたくらいです。日頃のおこないが良いからでしょうね(笑)。

ロープウェイを使って山を下りた私たちは、そこからホテルまで30センチは積もっている雪道を歩いて帰ることにしました。途中、ドラマのロケ地やテレビCMで知られている「八幡坂」を通りました。真っ直ぐ函館港へ通じる坂で神戸や長崎を思い出させる景色です。そんな素敵な景色に見とれていると後ろから“ドスッ”と音がしたので振り向くと中学2年の娘が豪快に転倒していました。私は娘の近くに行って手を貸しました。すると、娘はかなり動揺していたんでしょうね。私の手を放そうとせず、路面が凍っている数百メートルは手を繋いで一緒に歩きました。手を繋いで歩くのは小学校低学年以来です。日頃はあまり会話もせず、ましてや手を繋ぐなんて考えられません。私は心の中で「なんだかんだいってまだ子供だな〜」とニヤニヤしながら歩いていると、YouTubeで勉強した雪道歩きを一瞬忘れてしまい、娘を道ずれにして私も転倒してしまいました。その後、娘から尊敬の眼差しから軽蔑の目が変わったのは言うまでもありません。(苦笑)

